

・織部床の発生に付いて。～ 数寄建築で書院造では上段床の間でなく一の間の一の間壁を使用し。また茶室が発生し。小さな茶室で床の間がなく一の間壁を使用して。壁上部に幕板を取り付け。掛物を掛ける爲の竹釘や金物を打ち。掛物を吊り下げた。この幕板のことを 織部板 と呼び。このか所を 織部床 と称した。これが起りて時代とともに変化発達し現在の 織部床 夢想四分一 織部板 が生れた。

※押入内の中段・枕棚などに付いて。～ 長持(ながもち)家具として盛んな時代は。長持を押入に収納するため。中段・枕棚は可動式工法が主流であった。

手法として。押入四隅に板受根太(可動式)を受ける棚受押縁(小柱)に根太欠ぎ。傾ぎ胴付欠ぎ(3～5寸間隔に欠ぎ込み)を取り付け。中段や枕棚板(厚板)を数枚敷込んで高さや幅(奥行)を自由に調節できた。

・長持とは。衣類・調度・夜具。などを入れて置くため蓋のついた長方形の木箱で。普通長さ5尺位で。幅・高さは各々2尺位であり。また車をつけた 車長持 などが作られた。

5. 壁と天井との見切部材。～ (コーナーの各部位材)。

「天井廻縁」・「登り天井廻縁」・「天井長押」・「天井枕木」・「夢想四分一」・「天井楣」等。

※天井長押と天井廻縁を1部材とした部材を2重廻縁と称する。登り廻縁は舟底天井の勾配部分の廻り縁のことで廻縁より見付や出が小さい。夢想四分一は廻縁の下端に取り付け 軸三幅対金物 を取付け用部材である。天井枕木は天井廻縁が 変木・丸太材・竹類 使用の場合や。天井材に 自然材 や 野根板 を使用する場合に枕木を使用する。

6. 天井の各部材。

「天井棹(竿)縁」・「格天井格縁」・「舟底天井棟木」・「棟枕木」・「飾縁」・「見切縁」・「見切幕板(雲板)」・「カーテンボックス側板・天板」・「天井センターリング部位材」等。

※カーテンボックス側板・天板。が壁面付の場合は 壁の各部材の項にて。積算し記載すること。

7. 階段部材・手摺関係共。

「鰭桁・側桁・中桁」・「段板・踏み板・段木」・「耳板・床端板」・「蹴込板」・「幅木」・「止止め」・「裏羽目板」・「踏子・飼木」・「笠木・手摺」・「手摺(親柱・手摺子・手摺)」等。

※階段には。普通には。蹴込板嵌め階段。踏板階段。木口階段。などが主流である。古い型で箱を積み重ねたように組み踏板の下を引出しに利用した 箱階段 があり。必要のないとき天井へ釣り上げる 釣り階段 があり。または梯子状の さるはしご階段 や 梯子を垂直にした階段などがある。